



2018・11・08

## 2018 殿堂者（殿堂入り） 2018 歴史遺産車

### 2018～2019 殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 藤本 隆宏(東京大学 教授)

事務局:〒東京都千代田区神田神保町1-32 3F

TEL:03-3291-8511 / FAX:03-3291-4418 <http://www.jahfa.jp>

**表彰式典: 2018年(平成30年)11月15日(木曜日) 11時～12時30分**  
**学士会館 式場(202号)**

#### 1. 2018 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り） 3名

**大倉 喜七郎 氏** 日本の自動車レースと自動車文化を先駆

大倉 喜七郎氏は、大倉財閥2代目総帥としての活躍と共に、日本人レーサーの先駆者として、自動車レース黎明期の基盤を築き、自動車輸入販売会社や日本自動車倶楽部の設立など、自動車文化を先駆し多くの功績を残されました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

**中川 良一 氏** 日本の航空機・自動車の総合性能を跳躍させた偉大な技術人

中川 良一氏は、航空機のエンジン開発の後、プリンス～日産自動車にて自動車のエンジンの開発、R380 などによるレース活動への参戦、さらに電子制御技術など革新的技術に挑戦し、自動車の総合性能技術の発展に多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

**秋山 良雄 氏** わが国初の水冷式水平対向エンジンの生みの親

秋山 良雄氏は、スバルにおいてわが国初の、アルミ合金製の水冷式水平対向エンジンに取り組み、コンパクトにまとめた軽量かつ低重心の、高出力高耐性のエンジンを開発し、自動車の技術の発展に多大なる貢献をされました。その偉業をたたえ永く伝承して参ります。

## 2. 2018 日本自動車殿堂 歴史遺産車 3台

### 日野アンダーフロアーエンジンバス BD10 型 (1952年)

日野アンダーフロアーエンジンバス BD10 型はバスの輸送効率に配慮した商品づくりにより、日本におけるバス設計に多大なる貢献をもたらした。車体中央床下にエンジンを搭載、平坦にして広い床面積を確保、キャブオーバー型車体の採用による座席数の増加、我が国初の画期的なセンターアンダーフロアエンジン車を実現、歴史に残る名車である。

### トヨタ カローラ (1966年)

トヨタ カローラは消費者心理をとらえた商品づくりにより、自家用乗用車普及に比類のない貢献をもたらした。大きめのエンジン 4 速フロアシフト 丸型メーター、セミファストバックスタイル、セパレートシートなど、ファミリーカーの常識を一変させ、1969年から33年連続で販売台数首位の座に君臨、歴史に残る名車である。

### ホンダ ドリーム CB750 FOUR (1969年)

ホンダ ドリーム CB750 FOUR は北米で通用する大型オートバイを、750cc エンジンの採用により実現し、我が国におけるこのクラスの原点となる高性能 4 気筒エンジン、量産日本初のフロントディスクブレーキ、人間工学に基づく車体デザイン、振動騒音の低減など、安全で快適な高速長距離ツーリングを実現、歴史に残る名車である。

### 3. 2018～2019 日本自動車殿堂 イヤー賞

---

#### 2018～2019 日本自動車殿堂カーオブザイヤー（国産乗用車）

##### 「マツダ CX-8」および開発グループ

スタイリッシュな3列シートSUV

卓越した運動性能と効率的な室内空間

運転負荷の軽減と先進の予防安全技術

---

#### 2018～2019 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー（輸入乗用車）

##### 「BMW X2」およびインポーター

俊敏で躍動感のあるエクステリア

優れた操作性と心地よいインテリア

充実した安全運転支援システム

---

#### 2018～2019 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

##### 「レンジローバー ヴェラル」およびデザイングループ

滑らかなボディ表面処理と個性的なフォルム

シンプルでクリーンな操作系デザイン

伝統あるデザインの巧みな進化

---

#### 2018～2019 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー（国産・輸入乗用車）

##### 「トヨタ コネクティッド・サービス」および開発グループ

新たなモビリティへの先駆け

通信モジュールDCMを標準搭載

24時間 365日の安全・安心をサポート

---

以上

##### 【問い合わせ先】

日本自動車殿堂 事務局

担当 山田国光

info@jahfa.jp

TEL:03-3291-8511 FAX:03-3291-4418

## 参考資料 1

### 2018～2019 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果(各賞ベスト3)

2018～2019 日本自動車殿堂カーオブザイヤー	(MAX:1200点)
1位 「マツダ CX-8」	919点
2位 「日産 セレナ e-POWER」	772点
3位 「トヨタ クラウン」	769点
2018～2019 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー	(MAX:1200点)
1位 「BMW X2」	775点
2位 「ボルボ XC40」	726点
3位 「メルセデス ベンツ CLS」	697点
2018～2019 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー	(MAX:900点)
1位 「レンジローバー ヴェラール」	646点
2位 「ジャガー E-PACE」	545点
3位 「マツダ CX-8」	526点
2018～2019 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー	(MAX:900点)
1位 「トヨタ コネクティッド・サービス」	733点
2位 「マツダ CX-8 G-ベクタリング」	703点
3位 「ホンダ クラリティ PHEV」	662点

## 参考資料 2

### 日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領(抜粋)

#### 1. イヤー賞 4賞の選考

当該年度において発売された「最も優れた乗用車・輸入車・デザイン・テクノロジーおよびそれらの開発グループ等」を表彰する。

#### 2. 年次の選考対象期間

本年度の新型車の対象期間は、2017年10月21日から2018年10月20日までをその期間とする。

#### 3. 選考方法

- (1) イヤー賞は、選考の客観化と定量化そして高質化を目指し事前に各賞の選考委員集団の評価特性を位置付ける。すなわち、評価を行う側の委員の評価特性を「実用利便性」「経済性」「先進性」「安全性」「環境性」「審美性」などの項目により計量・解析し、レーダーチャートによって提示する。
- (2) 各賞の選考は、選考委員の投票によって行う。
- (3) 選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4賞に延べ45名があたり。
- (4) 選考の投票には、総合評価および階層分析法(Alytic Hierarchy Process)を組み合わせた選考準備委員会が構築した方式(データの正規化などによる評価の客観化・定量化)を用いる。

以上